

2025年度「秋の例会」実施報告

広報担当幹事 渡邊敏正

広島大学マスタース広島では、会員間の交流と親睦を深めるために例会を毎年開催しています。今年度は春の例会でオタフクソースの本社工場を訪問しましたが、秋の例会としてお隣り山口県岩国市の「錦帯橋と周辺の散策」を企画・実施しました。本稿はその実施報告です。

例会の開催要領

【目的】 山口県岩国市の錦帯橋と周辺の散策

【日時】 2025年11月13日(木) 10:15～17:30

【スケジュール】(雨天決行:歩きやすい靴での参加を要請)

10:15 広島バスセンター待合室集合

(バスの往復切符(1,800円)をバスセンターで各自が購入)

10:35 広島バスセンター発(1番ホーム、いわくにバス)

山陽自動車道経由

11:35 錦帯橋到着(河原へ降りて記念撮影、その後対岸へ渡橋)

12:00 昼食(瓦そば長州屋錦帯橋店、他)

13:00 吉香公園、岩国城などの自由散策

～16:00 16:00に錦帯橋バス停に再集合(以下、例会実施前の予定)

16:15 錦帯橋バス停発

17:12 広島バスセンター到着、解散

(注)諸事情により、参加者5名は15:15発のバスで、残り3名は16:15発のバスで、それぞれ帰途についた。

【参加費】 無料

- 往復交通費および昼食代、錦帯橋の入橋料(310円)および岩国城ロープウエーの乗車料(往復560円)、岩国城の入館料(270円)等は各自で購入

【参加人数】 8名

【現地到着後の大まかな行動】

錦帯橋を渡る前に、錦川の河原に降りて記念撮影をした。それから橋を渡って対岸に移動し、昼食に近くの食堂でそれぞれの好みに応じて、瓦そば、岩国寿司、蓮根料理などのご当地名物を味わった。昼食後は、参加者の多数はロープウエー

を利用して城山頂上の岩国城に向かった。ロープウエーに行く途中には紅葉谷公園、吉香公園、柏原美術館、岩国シロヘビの館など、訪れたい場所が多数あり、それらのいくつかを訪れて岩国城に向かったケース、あるいは下山後に訪れたケースなどが見受けられた。散策後の予定を早めに切り上げて帰途に就く、あるいはいろいろと見学してから帰途に就く、といった形で参加者の選択に応じて帰途のバス乗車時間は計画と若干異なり 2 通りとなった。代表幹事の下見に基づいた助言が、当日の参加者の行動に大いに役立ったことはここに記しておきたい。

以下に、錦帯橋と岩国城を中心に当日の様子をもう少し詳しく記述する。

【岩国市と錦帯橋】山口県東部、広島県に隣接し瀬戸内海に面する位置に岩国市があり、錦川が同市の北部中央付近から南下しながら蛇行を繰り返して次第に東に向かい、県境近くで瀬戸内海に注いでいる。錦帯橋は、JR 岩国駅から南西に延びる岩徳線の 2 つ目、川西駅からほぼ北の方向 1.5km 辺りで錦川を跨いでおり、方向としては北西から南東に延びる形で存在している（図 1）。錦帯橋は世界に稀な木造のアーチ橋である。5 つの反り橋が統一的なアーチ形状で連結されて錦川にかかっており、橋を支える基礎部分は金属を使用せず木材のみで構成するという特殊な構造を持ち、5 つの反り橋のうち内側の 3 橋のアーチは大きく膨らみ、両端の 2 橋のアーチは緩やかである（写真 1）。その独特の形状は、構造物としての設計が優れていることだけでなく、芸術的なデザインの視点からも高い評価を得ている。木々に覆われた急峻な山、その麓を蛇行しながらゆっくりと流れる川、そこにかかる木造のアーチ橋、これらが織りなす景観が多くの人を魅了して止まない。

【出発から現地到着まで】9 名の参加予定であったが、1 名欠席で参加者は 8 名となった。当日の天気はまずまずで、気温は 20 度前後であった。予定通りバスセンターを 10:35 に出発し、バスは渋滞もなく順調に進み、定刻に錦帯橋バス停に到着した。

【記念撮影と錦帯橋の通行】バス停は錦帯橋入口のすぐ前にあり、降車後まずバス停の案内所窓口で、錦帯橋の往復通行料、ロープウエーの往復利用料金、岩国城見学入場料の割引セット券を全員が購入した。その後、錦川の河原に降りて錦帯橋をバックに全員で記念撮影をした（写真 2）。

【錦帯橋を渡って対岸へ】撮影後に錦帯橋を渡り対岸へ移動した。橋を渡りながら、改めてその見事な構造に感心し、また水害などとの闘いや維持管理の大変さなどを想像しながら歩を進めた。橋を支える4つの橋脚は実に頑丈で、激流に耐えなければならない現実を目の当たりにした（写真3、写真4）。歩道部分は板を重ねた形状で板一枚が一つの段を構成し、歩行が実に楽である。歩道部分の板固定のために鉄製の釘が、また欄干などには薄い鉄板も使用されている（写真5、写真6）。



図1：錦帯橋周辺地図（出典：岩国市観光振興課発行のパンフレット「山口県岩国市観光ガイド」掲載の地図よりスキャナーで抽出、切り取りにより作成）



写真1：5つの反り橋が連なる独特の形状を持つ錦帯橋



写真2：錦帯橋をバックに記念撮影：左から（敬称略）、寺本、渡辺、椿、鈴木、於保、大杉、渡邊、圓山の各会員



写真3：河原から見た橋脚
(山頂に岩国城を望む)



写真4：橋上から見た橋脚



写真5：板を積み重ねた階段



写真6：欄干

【岩国名物と昼食】対岸で、参加者の多数は予め決めていたそば屋で昼食をとったが、中には別の店で名物の蓮根料理を昼食とした参加者もいた。昼食後は、計画通り16時ころまでの自由行動となった。錦帯橋付近の錦川の河原や岩国城の周囲には様々な大きさ、模様を持つ岩石が多数見受けられ、岩石の成り立ち、組

成などに興味を持つ参加者にとっては「岩石巡り」の非常に良い機会となったようで、昼食後には早速行動を開始していた。

【岩国城ロープウエーの山麓駅から山頂駅へ】錦帯橋からロープウエー山麓駅まで10分、頂上駅までのゴンドラ乗車時間3～4分、頂上駅から岩国城まで10分、という所要時間をパンフレットで見受けたが、ゴンドラは15分ごとに発着しており、岩国城までの実所要時間は30～40分と思われる。昼食後に、参加者の多くは岩国城を目指した。山麓駅までは吉香公園を通り抜ける道を選んだ。途中では樹齢を感じさせる立木や武家屋敷の構えを残す香川家長屋門を見ながら、一方では大規模の噴水に圧倒される、など新旧の対比を感じながら移動した（写真7、写真8、写真9）。ゴンドラに乗った後は、どんどん離れていく山麓駅と逆に広がっていく周囲の風景を楽しみ、程なく山頂駅に到着した（写真10）。山頂駅を出ると岩国城に向かう道の選択が必要となる。右は「未舗装の旧道」できつい坂道が予想され、左は道幅が広くて勾配が比較的緩やかそうに見える「舗装道路」であった。少し迷ったが、今の体力を考えて左の道を選択した。しかし、意外に長くて予想以上の勾配があった。10分の歩行時間は、「高齢者には十分な負荷のある道」という意味だったのでは、と思いながらマイペースで歩を進めた。



写真7：樹齢を感じさせる立木



写真8：香川家長屋門



写真9：大噴水



写真10：離れていく山麓駅と
広がる風景

【岩国城と山頂からの展望】辿り着いた頂上では、まず旧天守台の大きな石垣があり、少し離れて岩国城天守が見えた（写真 11、写真 12）。徳川幕府の一国一城令により、築城のわずか 8 年後に取り壊されたとのことである。現在の天守は昭和 37 年（1962 年）の再建であるが、天守の設置場所は麓の錦帯橋などからその姿が見えるように、築城時よりも 50m ほど南に変更されたとのことであった。1～3 階は刀剣、甲冑、錦帯橋や岩国城に関する資料などが展示されている。4 階は展望台となっており、そこからの眺望を堪能した。晴天ではあったがあいにく少し霽がかかっており、町並みの向こうにはっきりと見えるという岩国錦帯橋空港や瀬戸内海の島々はかすんでいた（写真 13、写真 14）。



写真 11：築城時の天守台



図 12：再建された現在の岩国城天守



写真 13：展望台からの眺望



写真 14：展望台にて（左から：敬称略）
圓山、大杉、椿の各会員

【帰りのバス乗車まで】都合で予定より早く帰途に就く参加者があり、事前に考えていたポイントの見学を終えたこともあって予定を変更して早めに帰りのバスに乗ることにした。下りのゴンドラから降りた後で錦帯橋に戻る際に再び吉

香公園を通った。公園内には大きな立木や樹種が多いと感じていたが、その訳は掴めていなかった（写真7、写真15）。暫く行くと説明板に、吉香公園一帯は明治の初めころまで吉川藩の武家屋敷が軒を連ね、その後は旧制岩国中学校の敷地であった、というこの地の歴史と共に、以前はここに教材樹林があった、という記述を見つけてその理由を納得した。さらに歩を進めていると、18世紀後半の建築と推定され、中級武家の屋敷としては全国でも数少ない遺構の一つ、という旧目加田家住宅の前に出た（写真16）。内部の様子からその質素な生活ぶりが想像できた。遺構を出たあと錦帯橋まで戻り、再び橋を渡ってバス停に移動した。5名の参加者が15時15分発の広島バスセンター行のバスに乗車した。残りの3名の参加者は予定通り16時15分発のバスで帰途に就いたとのことである。



写真15：楷の樹



写真16：旧目加田家住宅

【あとがき】まずまずの天候の中、秋の例会が予定通り実施できたことは喜ばしいことである。錦帯橋を渡り、岩国城に上り、周辺を散策する、など楽しみながらできるだけ歩数を増やす、ということを実践する有意義な一日となった。一方で、参加者が全員幹事で一般会員の参加がなかったことは残念であり、反省点として記憶しておくべきであろう。最後に、この例会を企画してお世話をいただいた総務担当幹事に謝意を表す。